R7 年度 学習の手引き（シラバス）

2	学年	教科・科目	国語・言語文化（森・イ）	単位数	1	担当者	丸山・仁科・杉村
---	----	-------	--------------	-----	---	-----	----------

1、教科書・副教材

新編言語文化（東京書籍） 新訂国語図説五訂版（京都書房） 常用漢字ダブルクリア四訂版（尚文出版）
--

2、科目の目標

<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付ける。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、言葉がもつ価値への認識を深める。

3、学習の計画

	学習項目	学習のねらい	時数	考査範囲
前期	4月 ①芥川	①文章の展開や表現の特色に注目しながら物語を読み味わう。	18	①②
	5月 ②ナイン	②語り手の支店や場面設定の仕方、表現の特色に注目し、物語を味わう。		
	6月 ③奥の細道	③作品の内容を読み取り、作者の思いを捉える。		③④
	7月 ★言語活動「文学碑探検」	★文学碑を調べることを通して、地域と文学の関わりについて理解を深める。		
	8月 ④「借虎威」	④格言や故事成語を学んで、漢文の世界に親しむ。		
後期	9月 ⑤「美しい」ということ	⑤筆者の経験と分析について理解し、「美しい」ということについて考える。	17	⑤
	10月 ⑥デューク	⑥主人公の心情の変化を読み取り、細かい表現に注意して話の展開を捉える。		⑥⑦
	11月 ⑦百人一首	⑦和歌に表れる古人たちの感性や思いを味わう。また、百人一首を通して楽しみながら古典文化への興味を広げる。		
	12月			
	1月			
2月				
3月				

4、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	古典の言葉や、我が国の言語文化に関する事項について理解する。	定期テスト、小テスト
思考・判断・表現	読むこと、書くことを通し論理的・多面的に思考し表現する力を鍛える。	定期テスト、レポート、作成物、発表
主体的に学習に取り組む態度	自らの力を伸ばすために、自ら試行錯誤して学ぼうとする態度を養う。	出席、提出物、授業態度

5、学習にあたっての注意とアドバイス

<ul style="list-style-type: none"> ・漢字力、語彙力定着のために、辞書を活用しましょう。 ・授業での学習活動には集中して読んだり考えたりして、積極的に取り組みましょう。 ・提出物に関しては、期限などの指示をよく聞き、提出期限を必ず守りましょう。 ・日常より言葉を通して積極的に他者や社会と関わろうとする意識をもちましょう。
--

R7 年度 学習の手引き（シラバス）

2	学年	教科・科目	国語・論理国語（普・理）	単位数	2	担当者	仁科
---	----	-------	--------------	-----	---	-----	----

1、教科書・副教材

高等学校論理国語（第一学習社） 核心漢字 2500＋語彙 1000（尚文出版）	新訂国語図説六訂版（京都書房） 現代文キーワード読解改訂版（Z会） 近現代文学コレクション（第一学習社）
--	---

2、科目の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力の育成を目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 (2) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

3、学習の計画

	月	学習項目	学習のねらい	時数	考査範囲
前 期	4月	①「自他の『間』あい」	①本文中で用いられる抽象的な表現や比喩の意味を把握し、筆者の論旨を読み取る。	35	① ② ③ ⑤
	5月	②「『私』中心の日本語」	②具体例と論旨とを意識しながら論理構成を把握し、筆者が主張する日本語の特徴を理解する。		
	6月	③「手の変幻」	③筆者の感性や着眼点、表現の特徴をつかみ、主張に説得力を持たせるための論の展開について考える。		
	7月	④「言語活動・課題の文章を読んで情報を整理し、構成を考えて小論文を書く」	④文章の効果的な組み立て方や接続のしかたについて理解を深める。自分の考えが的確に伝わるように工夫する方法を学ぶ。		
	8月	⑤「働かないアリに意義がある」	⑤アリの生態の話題から人間社会の問題点へと転換する論の構造を読み取る。自分の主張を補強する具体例の用い方を学ぶ。		
後 期	10月	⑥「A I 時代の社会と法」	⑥文章を批判的に読み、その妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する方法を学ぶ。A I の発展による変化を把握し、今日的な問題意識を持つ。	35	⑥ ⑦ ⑧ ⑨
	11月	⑦「なぜ多様性が必要か」	⑦動的平行という視点から生態系を捉える筆者の主張を理解し。生物多様性の必要性について考える。		
	12月	⑧「コミュニティ空間としての都市」	⑧情報の分析に基づく論理展開と対比構造を理解し、将来の社会のあり方を構想する広い視野を養う。		
	1月	⑨「『第二の身体』としてのメディアと技術」	⑨論理の展開を的確に捉え、メディアを「第二の身体」と述べる筆者の主張を理解する。文章の内容をもとに自分の考えを論述する方法を学ぶ。		
	2月	⑩「実用文・法に関わる文章を読み比べる」	⑩二種類の実用的な文章を読み比べて必要な情報を読み取り、関連付けて解釈する方法を学ぶ。		
3月					

4、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	論理的な文章を正確に読み解き、理解・活用するために必要な知識・技能を身につける。	定期テスト、小テスト
思考・判断・表現	文章読解を通して、様々なテーマに対するもの見方・考え方を養う。また、自分の思いや考えを伝え合うことで、多角的に考える視点を身につける。	定期テスト、レポート、提出課題
主体的に学習に取り組む態度	自らの力を伸ばすために、試行錯誤して学ぼうとする態度を養う。	出席、提出物、授業への取り組み

5、学習にあたっての注意とアドバイス

<ul style="list-style-type: none"> ・客観的に文章を読み、文章の構成を意識し、段落ごとの役割や関連を理解するよう努めましょう。 ・辞書や漢字練習帳を繰り返し開き、語彙力の定着に努めましょう。 ・普段から様々な文章に親しみ、身のまわりの事象に対して興味関心をもって過ごすように心がけましょう。

R7 年度 学習の手引き（シラバス）

2	学年	教科・科目	国語・論理国語（森・イ）	単位数	2	担当者	丸山・仁科・杉村
---	----	-------	--------------	-----	---	-----	----------

1、教科書・副教材

新編論理国語（東京書籍） 新訂国語図説五訂版（京都書房） 常用漢字ダブルクリア四訂版（尚文出版）
--

2、科目の目標

<ul style="list-style-type: none"> ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。 ・論理的・批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養う。

3、学習の計画

	学習項目	学習のねらい	時数	考査範囲
前期	4月	①世界をつくり替えるために	35	①
	5月			
	6月	②少女たちの「ひろしま」		③
	7月			
	8月	③「ふしぎ」ということ		
9月				
後期	10月	④複数の「わたし」	35	④⑤
	11月	⑤ラップトップ抱えた「石器人」		
	12月	⑥思考の肺活量		⑥⑦
	1月	⑦はじめに「言葉」がある		
	2月			
	3月			

4、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	論証や学習のために必要な幅広い知識・技能を身につける。	定期テスト、小テスト
思考・判断・表現	読むこと、書くことを通し論理的・多面的に思考し表現する力を鍛える。	定期テスト、レポート、作成物、発表
主体的に学習に取り組む態度	自らの力を伸ばすために、自ら試行錯誤して学ぼうとする態度を養う。	出席、提出物、授業態度

5、学習にあたっての注意とアドバイス

<ul style="list-style-type: none"> ・漢字力、語彙力定着のために、辞書を活用しましょう。 ・授業での学習活動では集中して読んだり考えたりして、積極的に取り組みましょう。 ・提出物に関しては、期限などの指示をよく聞き、提出期限を必ず守りましょう。 ・日常より言葉を通して積極的に他者や社会と関わろうとする意識を持ちましょう。
--

R7 年度 学習の手引き（シラバス）

2	学年	教科・科目	国語・古典探究（普・理）	単位数	2	担当者	丸山・島川
---	----	-------	--------------	-----	---	-----	-------

1、教科書・副教材

高等学校古典探究 古文編・漢文編（第一学習社）、新訂国語図説（京都書房）
 解釈のための 必携 古典文法（啓隆社）、Key&Point 古文単語 330（いっぴな書店） 新明説漢文（尚文出版）、

2、科目の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力の育成を目指す。
 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
 (2) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

3、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考査範囲
前 期	4月	① 故事・寓話 「推敲」「呉越同舟」「嬰逆鱗」「知音」	① 簡潔な文章に触れ、故事成語の由来を正しく理解する。	35	①①
	5月	① 『伊勢物語』 「渚の院」「小野の雪」	② 敬語の単語・用法を習得し、を身に付ける。登場人物の行動や心情を読み取る。		
	6月	② 『竹取物語』 「かぐや姫の昇天」	③ 話の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み取る。敬語の用法を学ぶ。		②②
	7月	② 名家の文章 『雑説』	② 文章の表現・比喩・構成の巧みさ、論の展開の仕方、思想家の思想の特徴を理解する。		
後 期	8月	③ 『大鏡』 「弓争ひ」「花山天皇の出家」	③、宮中を中心とする権力者たちの姿の一端に触れる。語り手の伝えたい主題を理解する。	35	③③
	9月	④ 『史記』 「鴻門之会」「四面楚歌」	④ 人間、社会、自然などに対する自分の考えを深める。また長文を読解する力を養う。		③④
	10月	④ 『源氏物語』 「光る君誕生」「若紫の君」	④ 物語を構成する、主人公と諸人物の人間関係の諸相を理解し、敬語の定着をはかる。		
	11月				
	12月				
1月					
2月					
3月					

4、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、伝統的な言語文化に対する理解を深める。	定期テスト、小テスト
思考・判断・表現	論理的に考える力を養う。また、自分の思いや考えを伝え合うことで、多角的に考える視点を身に着ける。	定期テスト、レポート、提出課題
主体的に学習に取り組む態度	自らの力を伸ばすために、試行錯誤して学ぼうとする態度を養う。	出席、提出物、授業への取り組み

5、学習にあたっての注意とアドバイス

- ・ 繰り返し音読し、古文や漢文のリズムに慣れ、初見の文章でもある程度の速さで読解できるように努めましょう。
- ・ 必ず予習（筆写・語句の意味調べ・品詞分解・書き下し文の作成・口語訳等）をして授業に臨みましょう。
- ・ 授業時の小テストや課題には真剣に取り組み、解答解説を使い、苦手部分の克服に努めましょう。